

リハビリテーション論		単位数	履修方法	配当学年
		2単位	R or SR	2年以上
科目コード	DF3122	担当教員	稲垣 成昭	



※この科目のスクーリングは隔年開講予定です。2017年度の開講後は、2019年度開講予定です。

■科目の内容

我々の生活のさまざまな場面で「リハビリテーション」が行われています。「リハビリ」という言葉が一般的に使用されるようになり、多くの人々は、病院内での歩行訓練や療法士の行う徒手の訓練をイメージするようです。しかし、動かなくなってしまった手足への訓練（医学的なアプローチ）＝リハビリテーションではありません。リハビリテーションは、社会福祉（福祉）分野でも日々展開される重要な理念であり、目標であり、方法でもあります。

わが国の福祉専門職、および専門職をめざす方々には、リハビリテーションについての正しい理解と、「広義の福祉」と「リハビリテーション」との関連性について学んでいただきたいと思っており、このことは、福祉領域の発展に寄与し、何より対象者の利益になり得ます。また、リハビリテーションは、複数の専門職により行われており、福祉専門職従事者の方々もチームの一員です。今後の福祉専門職種の方々は、チームの一員としてリハビリテーションを担う必要があり、どのようなシステムで行われているのかを的確に把握する必要があります。

本科目では、「リハビリテーション」、「社会資源」、「チームアプローチ」、「地域リハビリテーション」などについて適切な理解を促し、利用者へのより良いサービス提供について考えていただきたいと思えます。リハビリテーションを単体で理解するのではなく、「福祉」と「リハビリテーション」の双方の観点から考察してみてください。

■到達目標

- 1) リハビリテーションの理念について自分の言葉で説明できる。
- 2) リハビリテーションの領域と役割について説明できる。
- 3) リハビリテーションに携わる専門職種の役割及び連携のあり方について説明できる。
- 4) 地域リハビリテーションの概要を説明することができる。
- 5) 生活者としての対象者への援助を多角的に考察することができる。

■教科書

澤村誠志編『最新 介護福祉全書 別巻2 リハビリテーション論 第3版』メヂカルフレンド社、2008年

(最近の教科書変更時期) 2014年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	リハビリテーションとは (第1章)	リハビリテーションの意義について理解し、その背景となる歴史を知ることで、障害者とリハビリテーションの関係を学ぶ。	リハビリテーションの語源、意味を理解する事はとても重要であり、根源をなすものである。歴史的背景をふまえ理解すると理解が容易になるでしょう。
2	リハビリテーションに関連する諸制度の最近の動向 (第1章)	高齢者・障害者を取り巻く近年の動向を理解し、社会保障の現状について学ぶ。	今現在を含む私たちが生きる現代の状況を知ることが、数年で変化する社会保障の現状や問題について理解しましょう。
3	リハビリテーションの領域と役割① (第2章)	リハビリテーションの領域を学び、各領域の特徴や目的を理解する。	医療・福祉・保健分野における総合リハビリテーションの各領域（医学的・教育的・社会的・職業的）での目標や特徴を知ること、リハビリテーションが持つ意味を考えてみましょう。
4	リハビリテーションの領域と役割② チーム・アプローチ (第2章)	チーム・アプローチに関連する職種と役割について学び、チームアプローチの特徴と必要性について理解する。	チームで取り組むメリット・デメリットとは何かを知ること、自己が目指す職種の特徴、役割とは何かを考えてみましょう。
5	リハビリテーションの領域と役割③ IADL (第2章)	IADL の概念を学び、具体的活動内容及び ADL との関連について理解する。	対象者の生活を再構築する為の IADL、ADL などの生活技術の評価をする視点を理解することが重要です。
6	リハビリテーションに関する社会資源② (第3章)	社会資源とリハビリテーションの関連性について理解する。各種資源及び活用上の留意点について学ぶ。	社会にはどのような資源があり、その資源をどう利用するのか、自己の経験などから考えてみましょう。
7	福祉用具、住居の改造 (第4章)	補装具・日常生活用具の種類や機能、適応について学ぶ。また、住居の改造などの重要性・目的を理解する。	疾患・対象者のニーズに合わせた用具の選択・適応には、多種多様な道具を知る必要がある。対象者の状況をイメージし自己の身の回りに当てはめて考えてみましょう。
8	福祉のまちづくり (第4章)	福祉のまちづくりの目的及び歴史について理解する。	対象者を取り巻く環境について理解し、自己の周りの環境について、誰にとっても障壁のない出かけやすい街とはどんなものかを考えてみましょう。
9	リハビリテーション介護とは (第5章)	リハビリテーション介護の目的を学び、人が生きるということの根源を理解する。	リハビリテーションにおいて、援助者の思いで援助するのではない。対象者自身の選択、決定の上で成り立つことを理解していただきたい。また、普段自分達が実施している生活とは何か、QOL とは何かを再度考えてみましょう。
10	リハビリテーション介護技術の基本 (第5章)	様々な援助手段について学び、その意味について理解する。	ひとつの介入・援助手段をどの対象者にも同じく適応するのではなく、その人その人に合わせた対応を行うことの意味を考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
11	在宅訪問リハビリテーションの援助技術 (第5章)	訪問リハビリテーションの目的・支援の流れを理解する。	生活を支援する視点に立ち、その中で起る問題や課題をどう捉え、どう解決するのかを生活者としての視点を持ち考えてみましょう。
12	リハビリテーションの実際①身体障害 (第6章)	様々な疾患への支援方法を学び、疾患の原因や障害を理解する。	身体障害領域におけるリハビリテーションについて、実際にはどのようなことが行われているのか。また、対象者の日常生活を阻害する要因はなにかを考えてみましょう。
13	リハビリテーションの実際②老化・精神障害 (第6章)	様々な疾患への支援方法を学び、疾患の原因や障害を理解する。	老化、精神障害領域におけるリハビリテーションについて、実際にはどのようなことが行われているのか。また、対象者の日常生活を阻害する要因はなにかを考えてみましょう。
14	地域リハビリテーション (第7章)	地域リハビリテーションにおける多様な支援を学び、基本理念・考え方を理解する。	地域リハビリテーションの流れや課題を理解し、自分達が支援する場合にどのようなことができるのかを考えてみましょう。
15	終末期リハビリテーション (第8章)	リハビリテーションは人生のあらゆるステージに通じる理念を持つものであることを理解する。	「生きている限り生きがいを感じさせるのがリハビリテーションである」この言葉の意味を理解し、対象者にとって最高のQOLとは何かを考えてみましょう。

■レポート課題

1 単位め	① リハビリテーションと障害者の関連性について、歴史的背景および国際動向を踏まえ多角的に論じてください。 ② リハビリテーションと社会資源の関連性について、各種資源とのつながりを踏まえ論じてください。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題
2 単位め	① リハビリテーションの各領域について論じてください。 ② リハビリテーションと福祉の関連性を総合的観点から記述せよ

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

- 教科書を熟読し、リハビリテーションについて理解を深めてください。
- リハビリテーションについて、関連書籍や文献などを読み自分自身の言葉で説明できるよう理解を深めてください。
- いずれも①、②の両方について解答してください。各課題に取り組む際には、予め目次を作成し、記載する内容を明確にしてから本文作成を行ってください。目次をレポートの冒頭に必ず記入してください。事前準備を行うことなく、本文作成を行うとまとまりのないレポートとなることがあるため、注意が必要です。
- 教科書の内容を写すのではなく、各自の言葉で記載することが原則です。また、第三者が理解できる内容、記載であるかの確認を行ってください。
- 参考・引用文献は必ず2つ以上記載してください。

1 単位め アドバイス

①「リハビリテーション」という言葉を受け止め、理解を深めていただきます。まず、リハビリテーションの基礎となる語源、理念、目的などについて歴史的背景を踏まえながら考察してください。また、リハビリテーションの歴史は、障害者の歴史ともいわれます。そこで、障害者とリハビリテーションの関係を把握するうえで重要となる国際動向、およびその基本にあるものについて学んでください。

②「リハビリテーション」を提供するためには、対象者の多種多様なニーズへの対応が必要不可欠です。まず、リハビリテーションと社会資源の結びつきについて十分な理解を深めてください。その後、各種資源についてそれぞれのつながりについての相互関係を多角的に考察してみてください。

2 単位め アドバイス

①リハビリテーションとは、複数の関係職種が多角的側面から共通目的に向かい努力する過程です。また、さまざまなリハビリテーションが存在します。リハビリテーションを実践する現場は、施設や病院のみではなく、人々が住みなれた地域なども含まれます。生活者としての存在を維持する上で、地域社会との結び付きは欠かすことのできない課題も存在します。ここでは、総合リハビリテーションをしっかりと理解した後、リハビリテーションの各領域における専門職種の役割及び連携のあり方について考察してください。

②現在の障害は複雑かつ多様化し重度の障害を有する障害者数も増加傾向にあります。現在、各種障害者に対するリハビリテーションは、病院、在宅、地域などさまざまな場面で展開されています。また、わが国の平均寿命は、人生50年の時代から、今や80年時代へと変革してきています。単なる延命という量的な問題に加え、高齢期をいかに意義あるものとして生きるかといった質的問題が問われる時代です。ここでは、障害者および高齢者を主な対象として、リハビリテーションと福祉の関連性を、医療、福祉施設、地域、生活などを多角的に考察してみてください。

■科目修了試験 評価基準

評価基準は、科目修了試験100%となります。

解説問題は、内容理解が一番のポイントであるが、設問にて問われている単語の「キーワード」が書かれているかが重要になります。また、キーワードの意味を自己の言葉で記述する事が必要です。

語句の記入問題は、上記の解説問題でのポイントと同様で、ここではキーワードを聞いている問題になります。各設問で問われているキーワードを適切に理解していることがとても大切です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「レポート作成力」「創造的思考力」を身につけてほしい。

■参考図書

砂原茂一著『リハビリテーション』岩波新書、1981年

江藤文夫編著『よくわかるリハビリテーション』ミネルヴァ書房、2005年

中村隆一編著『入門リハビリテーション概論 第7版』医師薬出版、2009年

椿原彰夫編著『リハビリテーション総論』診断と治療社、2007年

山根 寛著『ひとと作業・作業活動』三輪書店、2005年